



# RUSH

## DETAILING LINE

製品マニュアル

2023.10

# 【製品マニュアル】

- ・ コーティング施工前 下地処理  
アルカリ性クリーナー・・・ゼロリムーバー、クレンジングオフ、クレンジングオフ2  
  
酸性クリーナー・・・スケールクリーナー、ウォータースポットクリーナー
- ・ 細部洗浄
- ・ 鉄粉除去・・・アイアンクリーナー、ホイールクリーナー  
鉄粉除去方法
- ・ GLASS POLISH (ガラス鱗取り)
- ・ ALKALI MULTI CLEANER (アルカリマルチクリーナー)
- ・ TIRE CLEANER (タイヤクリーナー)
- ・ サイドメニュー  
BLACK ARMOUR (無塗装樹脂パーツコーティング)  
  
RAIN CUT (フッ素ガラスコーティング)、WIPER COAT (ビビリ防止剤)  
  
WHEEL RUSH (ホイールコーティング)  
  
HEADLIGHT COAT (ヘッドライトコート)  
  
MOLE-COATING (モールコーティング)

# 1.コーティング時の下地処理

## 標準作業

スケール除去

水垢除去

(鉄粉除去)

※オプション

## 新車

脱脂

※必要に応じてスケール・水垢・鉄粉除去

## ダメージがある車

研磨

脱脂



汚れやキズによる塗装面の凹凸を無くすことでコーティングの性能を最大限引き出します

## アルカリ性クリーナー（水垢除去）

**特長** 有機物の汚れを除去します。ミラーやドアノブなどの縦じまの黒ずみ、油分を含んだ汚れを除去します。

**用途**

- ・コーティングの下地処理として
- ・経年車の水垢除去
- ・新車時の脱脂、研磨後の脱脂

**注意点**

- ※コーティング施工車のメンテナンスには注意してください。被膜がなくなり再施工になります。
- ※再塗装された車等、低密度塗装で塗り痕が残る場合は1パネルごとに施工・流水してください。
- ※施工時は必ずゴム手袋・マスク等の着用をお願いいたします。

### ゼロリムーバー（脱脂シャンプー）



新車や研磨後の脱脂に最適です  
（50倍希釈して泡立てて使用）

### クレンジングオフ、クレンジングオフII（水垢取りシャンプー）



コーティング前の下地処理  
経年車の水垢汚れに最適です

# クレンジングオフ施工

クレンジングオフⅡも同じ施工方法です。

## 準備するもの

- ・ スポンジA
- ・ 小分けボトル



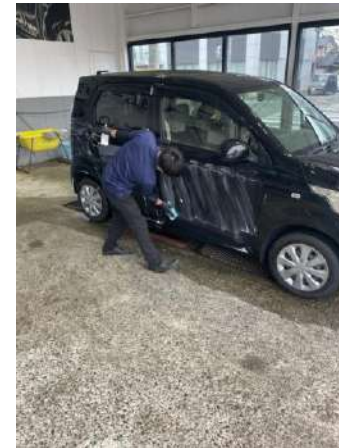
## 施工手順



①塗布量は1パネルにつき太い1本線



②3パネル塗広げるフチまで隙間なく



③1パネル目にもどって汚れを動かすようにこする

## ポイント

- ※汚れがひどい場合は強めにこすると汚れ落ちが良くなります
- ※塗りすじ等ムラがでる場合は、1パネルごとに施工・流水してください
- ※全体施工後の洗車は充分すすぎをしてください（アルカリ成分が残りやすい）

①～③を繰り返し  
全体を施工した後、洗車する

# 酸性クリーナー（スケール除去）

必ずゴム手袋・マスクの着用をお願い致します

## 特長

無機物の汚れを除去します。水道水や雨水に含まれるミネラル分（カルシウム・マグネシウム等）によってできたシリカスケール（水シミ）を除去します。また、冬場の融雪剤汚れの除去にも最適です。

## 用途

- ・ 洗車では落ちないミネラル汚れ・水シミの除去
- ・ 融雪剤によるシミ・黄ばみ汚れの除去
- ・ 研磨前の下地処理

## 使用不可パーツ



欧州車アルマイトメッキ



カラー塗装されている樹脂（レクサス・トヨタ系に多い）



※付着した場合はすぐに拭き取ってください（水拭き→乾拭き）

## スケールクリーナー



ミネラル汚れ・水シミの除去  
融雪剤の固着汚れにも最適です

## ウォータースポットクリーナー（強力酸性クリーナー）



スケールクリーナーでは落ちない強い汚れに  
液ダレを防ぐジェルタイプ

# スケールクリーナー施工

## 準備するもの

- ・ スポンジA
- ・ 小分けボトル



## 施工手順



①塗布量は1パネルにつき太い1本線



②1パネル塗広げ

↓  
反応するまで  
10秒程度置く

↓  
汚れを浮かすよう  
にこする



③1パネルごとに  
施工・流水

## ポイント

※ルーフはクロスを3枚使用します（塗広げ・掻きとり → ② 水拭き → ③ 乾拭き）

※汚れがひどい場合は繰り返しこする（乾かさないように）

※ガラス面・アルマイトメッキ等には使用不可（付着したら速やかに拭き取る）

①～③ を繰り返し

全体を施工した後、洗車する

# ウォータースポットクリーナー施工

## 準備するもの

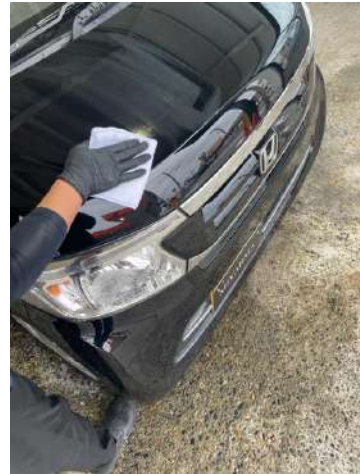
- ・ ウォータースポットクリーナー
- ・ マイクロファイバークロス×3枚



## 施工手順



①塗布量は1パネルにつき太い1本線



②1パネル塗広げ



白く反応するまで10秒程度置く



掻き取るように拭き上げる



③水拭き



乾拭きで仕上げる

## ポイント

- ① ※ルーフは1/4ずつ施工します（塗広げ・掻きとり → 水拭き → 乾拭き）
- ② ※面積の大きいパネルは細かく区切って施工（ボンネットなら1/4、ドアなら1/2ずつ）
- ③ ※ガラス面・アルマイトメッキ等には使用不可（付着したら速やかに拭き取る）



## 2.細部洗浄

エンブレムや隙間・グリル周りの蓄積汚れ除去

### 準備するもの

- ・ウォータースポットクリーナー
- ・マイクロファイバークロス
- ・ディテールブラシ（刷毛・筆）



### 施工手順



①ブラシにクリーナーをつけ、なでるように汚れを浮かせる



②クロスで汚れを拭き取る



③しっかり水を流す

### ポイント

- ※汚れがひどい場合は①～③を繰り返し施工します（クリーナーは乾かさないように）
- ※一気にやらずにパーツごとに分けて施工します

### 3.アイアンクリーナー・ホイールクリーナー（鉄粉除去）

**特長** ボディーやホイールに付着した鉄粉・ブレーキダストを除去します。紫色に反応・溶解します。

**用途**

- ・コーティングの下地処理として
- ・ブレーキダスト（ドア下部や背面に多く付着）や、大気中の鉄粉の除去
- ・研磨前は必須です

**注意点**

- ※塗布後、長時間の放置（乾いてしまう）はシミの原因になります
- ※施工時は必ずゴム手袋・マスク等の着用をお願いいたします。

#### アイアンクリーナー（鉄粉除去）



鉄粉に紫色に反応し溶解します

#### ホイールクリーナー（強力ジェルタイプ）



ホイール専用（ジェルで反応持続力UP）

# 鉄粉除去施工

## 準備するもの

- ・ マイクロファイバークロス
- ・ スプレーボトル

## 施工手順

ボディもホイールも工程は同じです。（ホイールはホイールクリーナーを使用してください）



①ボディ全体に  
スプレー塗布



②紫色に反応し  
鉄粉を溶解する



③クロスで掻き取るように  
全体を拭き上げる

## ポイント

- ※クリーナーで落ちない重度の鉄粉は、仕上げにトラップ粘土を使用してください（粘土痕・キズに注意）
- ※研磨施工前には必ず鉄粉除去をしてください（鉄粉は研磨では除去できません）

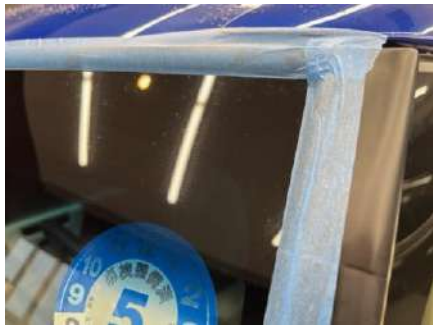
# GLASS PORISH

## 準備するもの

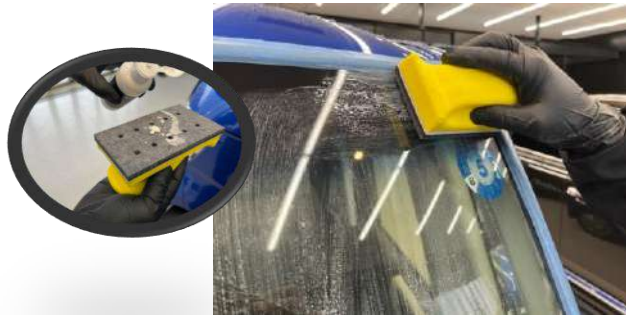
- ・ガラスポリッシュ
  - ・ソフトブロック
  - ・フェルトパット (ソフトブロック用)
  - ・リフレッシュクリーナー
- ポリッシャーがある場合
- ・ポリッシャー (ルペスHLR75推奨)
  - ・フェルトパットディスク (HLR75用)



※フロントガラスにはワイパーキズが必ず入ってます。  
ウロコ取りの施工をすることによってキズが浮き上がって来る事がありますので施工前にお客様とよく話をしてから施工を開始して下さい。  
ドアミラーは使用しないで下さい。  
研磨後ガラスの油膜も落ちますのでレインカットの施工をおすすめします。



①ガラス面の汚れを落とし、マスキングをする。



②フェルトパットに溶剤を適量付け、施工部分を研磨します。フロントガラス面は半分を1/4スパンで施工します。



③研磨剤が乾いてきたら、リフレッシュクリーナーを噴霧、補水し、さらに研磨します。



④最後に研磨剤を洗い流し、フィニッシュクリーナーで拭き上げます。

## ポリッシャーがある場合



①ポリッシャーにフェルトパットディスクを装着し施工部分を研磨します。フロントガラス面は半分を1/2スパンで施工します。



②ポリッシャーが入らない隅や際はフェルトパットで手磨きで研磨して下さい。最後に洗い流してフィニッシュクリーナーで拭き上げます。

# ALKALI MULTI CLEANER

アルカリマルチクリーナーは内外装用の溶剤とは別に酸性クリーナーの中和剤としても使用可能です。  
内装はシートの汚れ外装は油汚れや、ワックス汚れを落とす役割があります。

## 準備するもの

- ・アルカリマルチクリーナー  
スプレーなどに入れる
- ・RUSHクロス
- ・エンボスブラシ
- ・パルストルネーダーエアガン3s  
またはエアガン



- ・内装 シートの簡易汚れの落とししかた
- ・外装 ドアヒンジ部分グリスなどの汚れ取り

## 内装



- ①シートの汚れ部分を確認し、  
エアガンでホコリなどを飛ばします。
- ②エンボスブラシに溶剤を3プッシュほど  
塗布し汚れる部分をブラッシングします。

③RUSHクロスで水分  
と汚れを回収します。

④エアガンもしくはパルストルネーダー  
で乾燥させます。

## 外装



①ヒンジ部分に溶剤を適量噴霧し  
ブラシで汚れを掻き出す。

②RUSHクロスで拭きって  
下さい。

③最後に汚れがないかチェックして終わりです。  
取れない場合は再度作業を繰り返し行って下さい。

※内装のシート以外の部分で使用する場合は  
1か所試しにやってから使用して下さい。  
ホンダ車の場合は変色する恐れがありますので  
使用しないで下さい。

# TIRE CLEANER

## 準備するもの

- ・タイヤクリーナー  
スプレーなどに入れる  
(5倍希釈)
- ・スポンジA



タイヤの汚れ取りです。茶色く変色した汚れや余分な油分を除去しタイヤWAXの乗りをよくしてくれます。エンジンルーム内の汚れ取りにも適しています。

## 注意事項

- ・溶剤を噴霧する際、ホイールが冷えてる事を確認して下さい。
- ・アルミ及び、削り出しホイール、クリアコートを施していないホイールに溶剤がつくと変色の恐れがありますので使用は控えて下さい。
- ・噴霧してから長時間放置しないで下さい。



①タイヤクリーナーを  
タイヤ1周噴霧すると茶色い汚れが浮き出てきます。

②スポンジAで擦ります。

③水などで洗いながし、エアーを  
拭きます。

④タイヤWAXを塗布します。

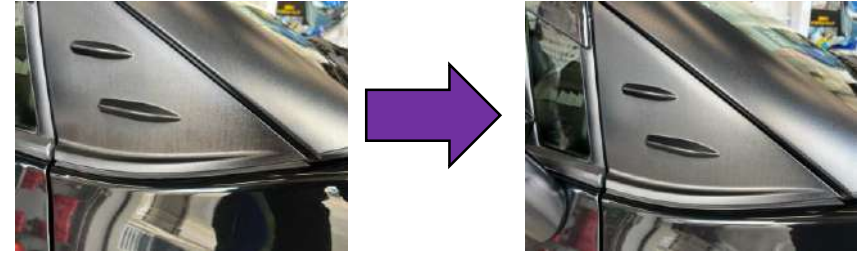
エンジンルーム内は濡らしたRUSHクロスに溶剤を噴霧し拭いて下さい。  
最後に乾いたRUSHクロスで拭き上げて下さい。

# BLACK ARMAOUR施工

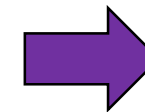
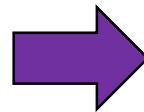
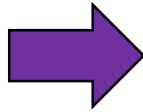
★施工前処理として、樹脂パーツにスケール汚れ（水ジミ等）がある場合は、事前にスケールクリーナー、クレンジングオフで落として下さい。

## 準備するもの

- ・ブラックアーマー（付属の小分けボトルに移しておく）
- ・スポンジB（小さく切って使用しても可）
- ・RUSHクロス
- ・LEDライト（必要であれば）



## 施工手順



スポンジBに溶剤は適量付け  
パーツに隙間なく塗り広げる。  
※大きいパーツは  
（バンパー、ワイパー根本等）は  
1/2サイズや1/3サイズで施工する。

1パネル塗り広げると同時に拭き上げを行う。  
⑨乾かし過ぎるとムラになったり、  
拭き取れなく事があります。

全体施工後、LEDライトや太陽光を使い  
塗りムラがないか仕上がりチェックをする。

1時間以上水や雨に当たらないよう  
乾燥、硬化させて完成です。

## 施工注意車

最新のホンダ車（ZR-V、フィットクロスター）の樹脂は特殊な樹脂の為、施工するとムラになります。現在、確認済みの車種は2車種です。 増える可能性がありますので、都度お知らせさせていただきます。対象車種は施工を推奨しません。 ご不明な点はお問い合わせ下さい。

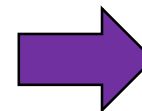


# RAIN CUT施工

★油膜除去での前処理  
①ガラス面を洗い、砂やホコリを  
キレイにしておく。

## 準備するもの

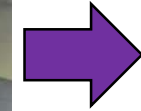
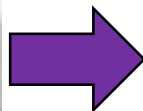
- ・レインカット
- ・スポンジB
- ・RUSHクロス 2枚
- ・ガラスクリーナー



②ガラス面が濡れてる状態で、付属のパットにガラスクリーナーを  
適量取り、縦横に擦りながら除去していく。

③水で流し、油膜が取れたか確認する。  
※水が弾かなくなればOKです。

## 施工手順



④スポンジBに溶剤を  
適量付ける。

⑤乾いた状態のガラス面に1/4を1スパンとして、  
縦横に隙間なく塗り込む。

⑥5分程乾燥させ、乾いたクロスで面を変えながら枠まで  
しっかり拭き上げる。もう1枚で表面の滑りが良くなるま  
でしっかり拭き上げる。最後に内窓清掃をし、車内外か  
らムラがないかチェックして完成です。

## WIPER COAT

フッ素ガラスコーティング車のワイ  
パービビリ防止剤です。  
ワイパー圧の強い外車におすすめで  
す。



- 準備するもの
- ・ワイパーコート
  - ・スポンジB
  - ・RUSHクロス



①スポンジBに溶剤を  
適量付ける。



②ワイパーラバーに  
塗布する。



③5分程乾燥させて  
RUSHクロスで拭く。

※ワイパーが上がらない車輛は  
アームの根元にタオルなどをかませて  
乾燥させて下さい。  
ワイパーの状態によってはビビリが出る  
可能性があります。



# WHEEL RUSH施工

## 準備するもの

- ・ホイールラッシュ
- ・スポンジB
- ・RUSHクロス 2枚



## 施工手順



①ホイールクリーナーを使って全体の汚れを落とす。  
十分な水でしっかり洗い流して、  
エアブローをして水滴を拭き上げる。



②スポンジBをビンの口に付け押さえた状態  
で1回振りコーティング剤をスポンジになじ  
ませます。



③ホイール全体にムラなく塗り広げる。  
※~17インチはホイール半分づつ塗布、18インチ  
~は1/3のスパンで塗り広げ乾燥させる。



⑤表面をクロスで乾拭きし  
引っ掛かりがなくなるまで仕上げる。  
あまりゴシゴシせず、軽く撫でるように拭く。

⑥再度ムラチェックをして  
表面を硬化させ完成です。  
夏(20°C以上) 2時間  
冬(15°C以下) 3時間  
水に濡れないようにする。

※ブラック・マットブラック・メッキ等のホイールは拭き上げが必要です。  
(硬化後、虹色になる場合があるため)  
完全に硬化してしまうと、ムラを落とす事が難しくなるため、  
タイヤを反転させてムラ、拭き残しが無いかチェックする。

## POINT

- ・1度でムラなく塗り広げる
- ・1度塗った後はあまり触らない。

乾燥時間目安  
夏(20°C以上) 10分~  
冬(15°C以下) 20分~

※乾燥後、表面にムラがないかチェックする。  
出来ればライトを当てて確認すると見やすいです。  
シルバー系のホイールでムラ、スジが残っていない  
場合は乾拭きせずそのまま硬化させる。

# HEADLIGHT COAT

## 準備するもの

- ・ヘッドライトコート
- ・スポンジB
- ・RUSHクロス



①溶剤を適量スポンジBに付けレンズ、バイザー等に隙間なく塗ります。

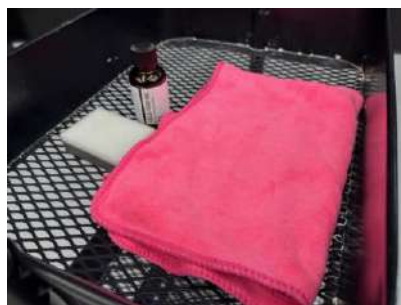


②10分程乾燥させたらRUSHクロスで拭き上げ、最後にLEDライト等でムラを確認して完成です。

# MOLE-COATING

## 準備するもの

- ・モールコーティング
- ・スポンジB
- ・RUSHクロス




①スポンジBに溶剤を適量付けモールに塗り込む



②塗って2時間~3時間表面硬化したらクロスで乾拭きします。

ブラックアルマイトモールにも使用出来ます。



白サビがある場合は別途研磨が必要です。